

令和5年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(中央地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

令和5年度 第7回 まちづくり懇談会《中央地区》実施結果報告書
--

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《中央地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 令和5年11月10日（金）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 中央地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 26人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，中央市民活動センター所長，広報広聴課長

5 懇談内容

- (1) 地域代表あいさつ 中央地域まちづくり推進協議会 会長
- (2) 市長あいさつ
- (3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	中心市街地の活性化について	NCC推進課 商工振興課 市街地整備課 廃棄物施設課 公園管理課
2	釜川周辺エリアの魅力向上について	NCC推進課 河川課 生活安心課 商工振興課 景観みどり課

(4) 自由討議

No.	要 望	所管課
1	子育て支援策について	学校健康課 学校管理課 生涯学習課
2	中央地区のまちなかについて	政策審議室 市街地整備課 文化都市推進課

(5) 来賓挨拶

市議会議員 馬上 剛 氏

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	中心市街地の活性化について
-----	---------------

パルコが撤退してから、かなりの日数が経過している。二荒山神社の向かい側、宇都宮の顔といえる場所が、がらんどうの状態では悲しい限りである。

駅東はL R Tが開業して活気づいているが、現状ではL R Tが西側に延伸しても、目玉となる集客施設がない。

中心市街地でお客さんが降りて、歩きたくなるような魅力ある施設や店舗、仕掛け等を考える必要があると思う。

宇都宮ならではの資源、良さをアピールする取組と、話題性のあるものを誘致する取組という両面のバランスを考えて活性化策を検討していただきたいので、検討例として、具体的に次の3つを提言させていただく。

1つ目は、例えば、横浜市のラーメン博物館や栃木市の新生姜ミュージアムのように、楽しめて遊び心のあるアミューズメントパークとして、民間資本とタイアップして餃子ミュージアムのような設立を進める事や、ジャズ界で世界的に活躍しているナベサダを顕彰する記念館やステーションギャラリーのような気軽に見て回れるコーナーを設置するほか、日本のマンガ・アニメが世界的な人気を博している中、宇都宮にはマンガ・アニメ専攻の芸術大学があるので、マンガ・アニメを生かした取組を展開するなど、地域資源を生かした話題性のある施設の誘致や取組の創出について、民間施設ではありますが、パルコ跡地の活用も検討頂きながら、知恵を絞っていただきたい。

2つ目は、中心部の公衆トイレであるが、汚くて利用する気にならない。そこで設計者によるデザインコンペなどを実施して建物のデザインを公募し、ユニークで綺麗で使いやすいと話題になる様な、モデル事業として、中心部の公衆トイレを改修していただきたい。

3つ目として、歴史的に重要な役割を果たした宇都宮城だが、よそから訪れた人ががっかりして帰るような状況にある。特にコンクリートの剥き出しが風情を損なっている。前回このような懇談会の時に質問した際に、その理由として「当時の姿と違う場所をはっきりさせる」というような説明があったが、それよりも、城址公園としての全体の景観を重視し、コンクリートの部分には漆喰を塗る、野面積みなどの表面にする等の対応を是非お願いしたい。

回 答**所管課：NCC推進課，商工振興課，市街地整備課，廃棄物施設課，公園管理課****【市長】**

私が市長になった時の大きな公約の柱がまちなかの活性化という事で，中央地区の皆様には，様々なイベント等も一生懸命行って頂くなど，いろいろな御協力をいただいた。

その中で中央地域まちづくり推進協議会など多くの関係者の皆様とともに，これからも中心市街地の活性化，つまりは宇都宮の顔が元気になる事，より元気になるって行くことを目指していきたいと思っている。

現在，本市では「都心部まちづくりプラン」の策定に取り組んでおり，住む人，また，働く人，学ぶ人，多くの人が行き交う大通りを中心に加速化・活発化している民間開発を促進していきたいと思っている。

やはり行政だけでは難しいので，民間の力を活用する事，そのため買い物や飲食などの多様なまちの機能を建物の低層階に導入していただいた際に活用できる『優良建築物等整備事業』を本年４月に開始した。

これは法律等で縛られる再開発事業とは違い，法的な縛りがないので，時間的にも短く施工そして竣工できるという大きなメリットがあるので，これを導入して，どんどん民間の力を活用していきたいと考えている。

また，８月には人中心のウォーカブルなまちなかの形成に向けて，官民が連携して良好な景観形成に取り組むルールである「景観形成の手引き」，また多様なまちの機能の導入等の要件を満たす建物の容積率の緩和，大きくて９００％まで容積率を緩和できる，そういうものを取りまとめたところである。また「宮の街ナカエキサイト」として，民間開発を実施する事業者に，そのような内容を説明させていただいている。何とか民間の力を誘導していきたいと思っている。

また，１１月にはまちなかの資源を活用しながらエリアの魅力向上にも繋がるよう，若者が気軽に集い，活動や交流が出来る「若者まちなか活動・交流センター」を開設した。

パルコ跡地も含めて，今後とも市民や事業者など多くの関係者の皆様と共に，都心部の歴史・文化，釜川や餃子通りなどの地域資源を生かしながら，人中心のウォーカブルなまちづくりなど都心部の更なる賑わい創出に取り組んでまいりたいと思う。

パルコについても，民間の所有であり，行政がとやかくは言えないが，民間の方が決めた事に対しては，我々も精一杯支援をさせていただき，出来る限りの力でまた元気なパルコ跡地にしていきたいと思っている。

また，２つ目のトイレであるが，公衆衛生の向上を目的として，釜川沿いなどに設置した施設で，本当に古いものである。現在毎日の清掃や修繕工事などによって，適切な維持管理に努めているが，設置から５０年経過している施設

もあり、老朽化がみられるという状況である。

中心部における公衆トイレについては、設置した当時と比較して周辺環境の変化に伴って、本当に必要かどうかというところもあると思う。必要なところはやはり老朽対策をしてかなくてはならないところだが、その市民ニーズや利用状況等を踏まえて、安全に利用していただけるよう施設の改修等の再整備を検討してまいりたいと思う。まずは利用状況調査をしっかりと行ってまいりたい。

次に、宇都宮城址公園であるが、御指摘の通り、平成８年度から平成１８年度にかけて復元・整備に取り組む中で、学識経験者の方々から「史実に基づき忠実に再現する」という御意見があった。

そのため橋の所の欄干は史実に忠実に作ることが出来ないのです、逆に「昔の物とは全く違う、現代風のステンレスで作るように」と言われた。私が市長に就任した時には、ほぼ設計も終わり、建設も始まっており、最後の欄干のところに来ていた時だった。その欄干を「擬宝珠とかで、より昔の形に近いものにしてもらいたい」とお願いしたが、「史実に基づかないものは今風に作るように」というお話だった。

皆さんも私達も同じ意見ではないかなと思うが、「史実に基づいて作っているから本物だってわかってもらえるんだ」と専門家の先生方はおっしゃるので、そういう事も御理解を頂きたい。

そのような中で、令和３年度に土塀の漆喰を修復する際にも、史実に忠実に、大規模な改修を行った所であり、未来に続いていくものでもあるため、しっかりと対応していきたいと考えている。

より一層多くの方々に御利用頂けるように、引き続き「よみがえれ！宇都宮城 市民の会」の皆様方が御苦勞されているので、その方々と連携を取りながら伝承・保全に努めていきたいと思っている。

余談だが、どんどん復元しようとする、東側に伸ばしていく必要がある。急な坂で旭中の手前位まで、宇都宮城の跡があったそうである。そこまでは、無理かもしれないが、そういったことも指摘されているという事を皆様方には、御報告をさせていただきたいと思う。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	釜川周辺エリアの魅力向上について
-----	------------------

中心市街地の貴重な親水空間である釜川周辺は、飲食店はもとより、アトリエやセレクトショップ・雑貨屋・シェアハウスなどが点在し、アーティスト・デザイナーなど、クリエイティブな人たちが集まる洗練されたエリアとして確立されつつあるとともに、最近では自治会や商店会・民間まちづくり団体と宇都宮市で構成される官民連携のエリアプラットフォームである「カマクリ協議会」が設立されるなど、多様な主体による様々なまちづくりの活動が活発に行われている。

そんな釜川は、二層化工事から30周年を超え、まちなかの重要な地域資源になっている一方で、修繕が必要な箇所が散見されるようになってきた。中心部では施設の老朽化や側道のがたつきの他に、人工的な滝などの河川構造による水の澱み・悪臭・ゴミが貯まる所がある。また、釜川の両側では、駐車場や空き地が増えており、特に空き家の相続の問題等では不動産の流通に乗っておらず、使いたくても使えない状況のものがほとんどである。

具体的な提言としては、1つ目は、今後、釜川の大改修をする際に、傾斜の角度や段差の高さなどを再検討して、中心部の流れがもう少しスムーズになるように、工法上の工夫をお願いしたい。

2つ目は、「カマクリ協議会」において建物2階にあるテラスやベランダを釜川沿いの道路上空に張り出させていただき、釜川の景観を楽しんでもらうなど、河川・道路といった公共空間と私有地の一体的な活用を進める取組を試行的に行ったところであり、釜川周辺エリアの、居心地がよく魅力的な空間づくりに取り組んでいる所である。

そのような中、釜川においては、空き家や空き店舗が目立つ現状があることから、公共空間と私有地の一体的な活用を、より一層効果的に進めるためにも、空き家や空き店舗など利用されていない空間が少しでも減っていくような具体的な施策を望む。

3つ目は、中心部において、現在市が掲げているウォーカブルなまちづくりを進めていくには、歩行空間の整備や、歩行者と車両の分離など、安心して歩くことが出来る環境づくりの他、歩いて楽しくなる環境づくりも重要な事と考えている。現在、住民や団体・行政などで組織された「釜川周辺地区景観づくり推進協議会」において、検討が進められているところではあるが、今後どのような方向性をもって釜川周辺の魅力ある景観づくりを進めていくのか、改めて市の考えを伺いたい。

回 答**所管課：NCC推進課，河川課，生活安心課，商工振興課，景観みどり課****【市長】**

地元中央地区の皆様に加えて、「カマクリ協議会」をはじめ、各種団体の皆様方など、多くの方々が中心市街地の活性化に取り組んでいただいております、改めて御礼を申し上げます。

釜川については、釜川河川愛護グループをはじめとする沿川の皆様に、ごみ拾い等の清掃活動や美化活動への継続的な御協力により、良好な河川環境が保たれているところである。

市民の憩いの場でもあり、中心市街地の活性化のための貴重な地域資源として、この釜川を大切にしていかななくてはならないと思っている。

宇都宮市においては、釜川が整備され約30年が経過した。施設の老朽化や側道のがたつき等が確認できることから、日常的な現場パトロールのほか、地域の皆様の御指摘や御要望を踏まえて、安全性を確保する観点で、優先順位の高いところから、優先的に修繕を実施している。

インターロックの修繕や四阿^{あずまや}などの、修繕が必要な時があったので、適宜行っているところである。また毎週1回はごみ取り等の清掃に加えて、年に1回の親水エリアを中心とした河川内の洗浄を実施している所だが、水の澱みによる臭気が発生している。皆様の御意見を伺いながら、水辺環境が向上するような効果的な対策を検討してまいりたいと思うが、まずは、その原因究明を行っていききたいと思っている。

その中で、例えば水の澱みは、水の勢いが足りないようであれば、それを根本的に直していかななくてはならないと思う。

また、木の渡りなども崩れていたような所があり、そういったところについては、既に修繕をした。このような事を、絶えず気を配って行っていきたいと思っている。

そして、空き家・空き店舗であるが、空き店舗対策としては市としても、地域出店する際に必要な経費を、一部補助するなどを継続して行ってきたところである。特に釜川沿いの地域においては、補助率を通常の30%から40%に引き上げて、新規出店の促進に積極的に取り組んでいる。

また、空き家対策であるが、空き家の活用促進に向けて、不動産業界団体にも参画頂いている官民連携組織の「宇都宮空き家会議」と連携を図りながら、空き家の所有者と希望者のマッチングを行う「空き家・空き地活用バンク」などに取り組んでいる。弁護士など専門の方々に入っていただき、活用できる物件かどうかを仲介をする。その中で仲介して買ってもらい、借りてもらうというような物件を90件公表させていただいた。その内70件が契約となり、借りたり、あるいは買ったりしていただいたので、これをこれからもフル回転で、

使ってまいりたいと思っている。

また、釜川エリアであるが、魅力的で活力ある地域を育むことを目的として活動している「一般社団法人 釜川から育む会」を宇都宮市で初めて、まちづくり活動の推進主体としての役割を担う「都市再生推進法人」として指定をさせていただいた。同会においては、所有者に変わって空き家や空き地の有効活用を検討していただいているところである。空き家会議と二本立てで、しっかりと対応してまいりたい。

また、3つ目のウォーカブルなまちづくりについてであるが、人中心のウォーカブルなまちづくりに取り組むうえで、まちなかにおいては、ゆとりある歩行者の空間の確保や歩きながら眺めても楽しめるような店舗や建物を増やすなど、歩いて楽しくなるようなまちの雰囲気の良さを高め、エリアごとの特色を活かした空間づくりが必要であると考えている。

こうした中、釜川周辺エリアにおいては、景観づくり活動として、商店会やまちづくり団体をはじめとした多くの皆様の御協力により、釜川プロムナードやみはし通りにおいて、ハンギングバスケットやプランター設置による華やかな緑空間の創出に取り組んでいる。

また、自治会やまちづくり団体・行政などにより「釜川周辺地区景観づくり推進協議会」を組織し、地域の皆様と行政が連携しながら、魅力ある景観づくりに向けて取り組んでいる中、釜川周辺の特徴や魅力をさらに高めていくためには、「水と緑を生かした景観づくり」また「人が訪れたくなるような空間の形成」などの意見をいただいているところであり、今後、これらの意見を踏まえて、地域の皆様方と一体となって、景観づくりを行ってまいりたい。

■自由討議（要旨）

発言 1 子育て支援策について

子育てに対してという事で、2点ほど話をさせていただく。

中央地区も、ひとり親世帯や生活保護を受けている家庭も多いが、それに加えて今は物価高という事で、私もそうだが、サラリーマン世帯は最低賃金は上がっても給料は上がらないので、物価高で経済的な部分が、子育て世帯では悩ましい状況であるという事である。

そのような中で、宇都宮市では今後、学校の給食費の無償化などを含めて、義務教育を受けさせる上で子育て世代に対する負担軽減になるような施策などは考えているのかというのが1つ目の質問である。

あわせて、中央地区は比較的自営業の家庭も多かったが、今は共働きも多い。ここ最近でいくと、天候などによる突発的な下校時間の繰り上げに対応するのに苦慮している。そのような場合、子どもの家で一時的に登録してない子も預かってもらえるような柔軟な対応をしていただけるよう、子どもの家に対して市から経費などを助成していただき、人員の拡充などを希望したい。

回答 所管課：学校健康課，学校管理課，生涯学習課

【市長】

子育て世代への負担軽減について、先程御説明させていただいた医療費の無償化などを行っている。学校に関するもので言うと、学校給食費であるが、我々は学校給食は出るものだと思っているが、給食の提供を選択制とする自治体もある。そのため、国は給食費を、全国・全児童生徒無償化というのは踏み切れないでいると思う。また、私立と公立での違いというものもあり、いろいろな給食費の支援のかたちがあるので、考えているところだと思う。

宇都宮市としては、給食費については、施設の維持管理や調理員の人件費に加えて、光熱費についても市が負担をして、食材に係る費用のみを保護者の方々に負担をしていただいている。

こうした中、令和4年度から給食提供に係る食材費等を支援する「学校給食等支援事業」を実施している。令和5年度においては、食材費への支援に加えて、大変な物価高が続いているので、9月の給食費を減額して徴収するなど、保護者がより実感できるような給食費の負担軽減を図ったところである。

今後も、物価高騰がさらに続くような時には、また考えてまいりたいと思う。

特に生活保護を受給されている方は、もともと学校給食費も学校にかかるものが、ほぼ無料になっている。また生活保護に準ずるような大変厳しい状況と

いう方についても、「就学援助制度」というのがあり、給食費も無償、そして体操着や修学旅行の費用なども、生活保護受給者と同じように無償になっている。そういう事も一つ御理解をいただきたい。

今後については、国や県の動向というのもしっかりと踏まえながら、併せて検討してまいりたい。

また、小中学校における天候の不順による大雨等の下校時間の変更であるが、児童生徒の安全を守るために、大雨や雪などの危険な天候の回避などを目的に、実施しているところである。

子どもの家は安全・安心な事業運営のために、事前の利用申し込みをいただいている。保護者の皆様が下校時刻の繰り上げへの対応が困難な場合については、これまでも各学校において状況に応じた対応を行っているので、学校へ御相談をいただきたい。

発言 2 中央地区のまちなかについて

先程の代表意見 1 の質問を受けての質問である。

L R T が西側に通るのを大変期待しているが、その前に、もっと中央地区のまちなかがきれいにならないと困ると思う。

最近では、NHK がどこかに移転するという話もあり、お城も近い事から、そこに山車会館を建てたらどうかと思っている。

また、ドン・キホーテの建物も建て直さなければならないと思うので、建て替える時に、デザインを工夫してほしい。2 階や 3 階に噴水などがあれば、いろんな人が来る。

山車会館や噴水があれば、中央地区に回遊性をもたらすことが出来るのではないかと思う。

まちなかをきれいにすることも一緒に考えていただきたい。

回答 所管課：政策審議室，市街地整備課，文化都市推進課

【市長】

きれいなまちは当然必要であり、来訪者の方が来やすいという環境を作るだけではなくて、住んでいる人もきれいなところに住んでいた方が良いと思う。そのような中で、来ていただく外国の方や、本日もスロベニア大使に来ていただいたが、キレイと何度も言っており、ゴミが落ちてないなど水準が違うのだと思う。パルコをはじめ中心市街地の商店街、バンバ商店街の方々と思うが、毎月何回か朝 7 時から清掃活動されている。我々も若い頃、参加させていただいた。そのような事をこれからもやっていただききたいと思う。行政としてもゴミが出ないような、環境作りをしていかななくてはならないと思っている。

そのような中で、御指摘された L R T が西側に通るまでにやっておくべき事であるが、NHK は民間施設であるので、何とも言えないが、耐用年数は過ぎていると伺っている。NHK に対しては、移転する前に情報提供や相談があった場合には、今の土地の利用について、宇都宮市としての考え方もお話をしていきたいと思っている。

山車についてだが、どこの地区も神輿や山車の保存ということで話題にあがるが、特に山車については、一回ばらすと組み立てられなくなってしまうという時代になっているそうである。そのため、分解するのではなくて、完成させたまま保管をしたいという、山車会館や収蔵庫について、いくつか要望をいただいている。これは中央地区やまちなかだけの話ではなく、富屋や篠井などもたくさん保有しており、市としても整理をしていきたいと思っている。

またパルコとドン・キホーテまたはパルコ、ドン・キホーテの跡であるが、

これも民間所有のものであり、我々としても何とも言えないが、市として出来る事をやってきたいと思う。